

実証実験 想定シナリオと実施内容

① 災害時に活用：空撮による被災状況把握、孤立集落への救援物資輸送

想定シナリオ	台風被災により加計呂麻島 瀬相=西阿室間の山道にて土砂崩が発生、西阿室が孤立集落に。瀬戸内町・災害対策本部は、住民から被災情報を収集するとともにドローンによる空撮画像にて状況把握し、救援物資を西阿室へ空輸する。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■被災想定の中間部へドローンを飛行させ周辺状況を空撮 ■被災情報の収集および救援必要物資品の連絡に専用スマートフォンアプリを試験利用 ■瀬戸内町役場の災害対策本部(訓練)において、ドローンで撮影した高解像空撮画像およびスマートフォン経由で寄せられる情報等をリアルタイムに一元集約。自衛隊、警察、消防等と共有し、状況把握、協議・判断に活用 ■救援物資として水(2ℓ×3本)を災害対策本部より西阿室へ空輸。実証実験においては、加計呂麻島・瀬相より物資を搭載し、遠隔運航にて西阿室小学校(避難所と想定)校庭に着陸させ、物資を届けた ■緊急時のドローン運航、離発着地の設定・運用について検証
使用機材	DJI 製 Matrice300 (用途:空撮) プロドローン製 PD6B (用途:輸送)

② 平時に活用：二次離島への医薬品・日用品の輸送

【医薬品】

想定シナリオ	与路島・請島には薬局がなく、処方医薬品の受け取りは古仁屋(奄美大島)の薬局薬剤師の巡回配達に依る。与路島・請島への配達には加計呂麻島を経由し船舶・車両を乗継ぐなど長時間を要す。また、船舶欠航により定期配送は不確実に。与路島・請島への新たな配送手段としてドローン配送を導入。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■「ドローンによる医薬品配送に関するガイドライン」に則った手順により処方薬(普通薬)を古仁屋にてドローンへ搭載。今回の実証実験においては与路島への直行ルートを運航 ■与路島へき地診療所看護師が到着したドローンから処方薬を受け取り、患者への受け渡しを実施 ■古仁屋の薬剤師と与路島の患者によるオンライン服薬指導(模擬)を実施
使用機材	YAMAHA 製 FAZER R G2

【日用品】

想定シナリオ	加計呂麻島・与路島・請島には大きな商店がなく、日用品の買い物時は、海上タクシーやフェリーを利用して長時間移動し古仁屋等へ出向く。当該三島において日用品(食品など)を手軽に求める潜在需要あり。新たなお買い物サービスとしてドローン配送を展開する。
実施内容 (与路島・ 請島ルート)	<ul style="list-style-type: none">■ 住民は店舗(コンビニエンスストア・古仁屋)へ温かい飲食物(肉まん等)と冷たい飲食物(アイスクリーム等)を併せて注文。店舗への発注は専用のスマートフォンを試験利用■ 店舗にて商品がピックアップされ、古仁屋港の仮設離発着場へ搬入。ドローンへは温・冷飲食物それぞれ温度管理をしたうえで搭載■ 注文後を受けてから商品のピックアップおよび搭載に 20 分程度、古仁屋より与路島・請島へは飛行時間30分程度で到着。オンデマンド運航であれば1時間未満にて注文商品が届く個配サービスの可能性、および当該ルートにおける配送品の保温/保冷管理も実証
	YAMAHA 製 FAZER R G2



ドローン(FAZER R G2) 与路港